

「ダビデは正しく歩む決意をどのように強めたか」(MWB20240409 宝)

(序論)0. 私たちが今、正しく歩む決意を強めるべきなのはなぜか？

エホバと共に正しく歩むことつまり人間の忠誠は、エホバの宇宙主権に関する論争の重要な一面で、私たち一人一人の正しい生き方は、裁きの根拠となるものだから。それで詩編 26 編から、正しく歩む上で助けとなるダビデの模範の中の3つの点についてご一緒に考慮

(模範)1. ダビデは、自分の考えと心を清めてほしいとエホバに祈った。

詩編 26:2 (読む) (脚注: 奥底の考え(*奥底の感情/d 腎臓/前訳ムト)、清めて(*精錬して))。

腎臓は、体内の奥深くに位置し、比喩的な意味で人の最も深い所にある考えや感情を指す。また、心は、内なる人全体、すなわち動機、感情、および知性を表わす。[画像お願]ダビデは自分を調べてくださるようエホバに願い求めたとき、自分の内奥の考えや感情を精査して、精錬して清めてくださるようにと嘆願していたのです。それに応えてエホバは、ご自分の助言がダビデの内面の一番深い所に達してとどまるようにされて、内奥の考えや感情を正してくださった[画像感謝]

土曜日の特別プログラムも私たちの祈りに対するエホバからの応えかも。私たちもノア/ダニエル/ヨブのような「大木のようになりますか?」。また、野外で会う人々に「そう望みます」か? 聖書や組織を通して与えられるこうした助言を感謝して熟考し、引き続き考えや感情を精錬していただくようにしたい

(模範)2. ダビデは悪い交友を避けた。

詩編 26:4、5。ダビデは、人を欺く悪人たちとの交友を避け、拒み、そうした悪い交わりを嫌っていた。

わたしたちも背教者は勿論のこと、下心を持って背教的な影響力を及ぼそうとする人物、さらにテレビ番組、ビデオ、映画、インターネット・サイトなどを通じた不真実な人たちとの交友も、注意深く避ける必要がある。エバがサタンのわずかな言葉に騙されたように、少しの接触でも甚大な被害を受ける危険がある。私たちがダビデのように、悪い交わりを嫌悪する気持ちを強め、徹底的に避けていく

(模範)3. ダビデはエホバへの崇拝を大切にしていた。

詩編 26:8。幕屋には犠牲のための祭壇があり、そこはイスラエルにおけるエホバの崇拝の中心地でしたので、ダビデはそこでの喜びをこのように、言い表した。

わたしたちもエホバについて学ぶための場所に集うことを愛している。どの王国会館もそれぞれの土地における真の崇拝の中心地ですし、加えて、地区大会、巡回大会や特別なプログラムも大切にしている。これらの集まりで話されるエホバの「諭し」を注意深く聞き、これからも、信仰の仲間と共に集まり励まされる機会に感謝し、それを大切にしていきたい。

(結論)4. さらに、ダビデは間違いを犯したことがあっても「清い心で」歩んだことにも注目

ダビデ王も不完全で生涯中に何度か重大な過ちを犯しましたが、それでも列王第一9:4で、ダビデが『清い心で正直に仕えた人(脚注: 心の忠誠心を尽くして歩んだ人)』と評価されているのはなぜ? 神に対して正しく歩むのに、まず完全でなければならない訳ではないことを理解できるが、ダビデがエホバを愛していたこと、その心が神に対してひたむきだったこと、進んで自分の誤りを認め、戒めを受け入れて自分の道を正したこと、そのようにして仕え続けたエホバから愛されたこと、から分かるダビデの高潔さと清さは、エホバを愛しエホバに心を込めて一生懸命仕えたことに表れていた。では、自分の考えと心を清めてほしいとエホバに祈り、悪い交友を避け、エホバへの崇拝を大切にしたダビデに倣い、これからも一層神を愛し神から愛される、正しく歩む人となる決意を強めていく